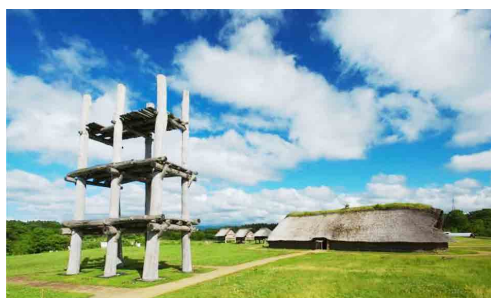


治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <https://zensuiren.org/>
お問い合わせ info@zensuiren.org
編集・発行 椿本和幸



三内丸山遺跡(青森・東北大会)



羽ばたくトキ(新潟・北陸大会)(写真:環境省提供)



三保松原から望む富士山(静岡・中部大会)



風見鶏の館(兵庫・近畿大会)



後楽園(岡山・中国大会)



史跡高松城跡 玉藻公園(香川・四国大会)



太宰府天満宮(福岡・九州大会)

● 目 次

東北地方治水大会について.....	2
北陸地方治水大会について.....	4
中部地方治水大会について.....	6
近畿地方治水大会について.....	8

中国地方治水大会について.....	12
四国地方治水大会について.....	14
九州地方治水大会について.....	16

東北地方治水大会の開催について(ご案内)

令和元年10月21日(月) 13:30～
青森市 青森国際ホテル
青森県県土整備部河川砂防課

今年度の東北地方治水大会事務局を担当している青森県から、本県のPRも含めご案内申し上げます。関係者の多数のご参加をお願いいたします。

【青森県のすがた】

青森県は本州最北に位置し、ニューヨーク、北京、ローマ、マドリードとほぼ同緯度に位置しています。北は津軽海峡を隔てて北海道と対し、南は秋田、岩手両県に接するほか、東は太平洋、西は日本海に面し、三方を海に囲まれています。総面積は約9,646km²で、全国第8位の広さを誇っており、その約7割を山地丘陵地が占めています。

県の中央部には奥羽山脈が南北に走り、八甲田連峰などの中央山地を形成しており、これを挟んで日本海側には白神山地や津軽半島、太平洋側には八甲田山系東部の丘陵台地と下北半島があり、さらに津軽半島と下北半島に囲まれるように陸奥湾があります。このように、海域や地形が複雑なことから、同じ県内でも、地域によって気候が大きく異なります。中でも、冬季における津軽地方の大雪と、夏季における太平洋側を中心とした偏東風(ヤマセ)が代表的な違いとなっています。

また、青森県には世界自然遺産の白神山地や、十和田八幡平国立公園、平成25年に創設された三陸復興国立公園などの自然公園が点在しています。中でも、十和田八幡平国立公園に位置する十和田湖、奥入瀬溪流には、紅葉のシーズンを中心に多数の観光客が訪れています。



紅葉の十和田湖

【河川の現況】

青森県には、世界遺産白神山地を源とし、津軽平野を流下して日本海にそそぐ岩木川、景勝地十和田湖に源を發し、太平洋へそそぐ奥入瀬川など、大小合わせて284河川あり、その水資源は発電、かんがい、上水道等に幅広く利用されています。

本県が管理する一級河川は、岩木川水系93河川、馬淵川水系13河川、高瀬川水系23河川の、合計129河川、総延長は約918kmとなります。また、二級河川は、堤川水系、奥入瀬川水系、新井田川水系など、79水系157河川あり、総延長は約1,003kmとなります。

このうち、県管理河川の要改修延長は1,216.5kmで、県施行の改修事業としては、昭和21年着手の平川中小河川改修事業を皮切りに整備を進めており、平成30年度末までの整備率は39.2%となっています。

【近年の災害】

本県における近年の主な災害は、平成25年9月の台風第18号の影響によるものであり、県内の広い範囲で浸水被害や土砂災害が発生しました。

中でも馬淵川流域では、総雨量180mmを超える降雨を観測し、馬淵南部水位観測所において、氾濫危険水位6.14mを大きく上回る9.05mの既往最大水位を記録しました。このため沿川では浸水面積約472ha、床上浸水178戸の被害が発生し、住民生活に大きな影響を及ぼしました。

この台風による県全体の公共土木施設災害は406箇所、被害額は約37億円に上りました。



平成25年台風第18号による馬淵川浸水状況(南部町虎渡地区)

【主な治水事業】

(1) 馬淵川広域河川改修事業

馬淵川ではこれまでに幾度となく洪水による浸水被害を受けていたことから、県では「土地利用一体型水防災事業」、「床上浸水対策特別緊急事業」などを進めてきましたが、平成25年9月の台風第18号による豪雨災害を受け、平成26年度からは「広域河川改修事業」により堤防の新設・嵩上げなどの対策を集中的に進めています。

(2) 下北八戸沿岸地区地震・高潮対策河川事業

太平洋沿岸の八戸市・おいらせ町では、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、広範囲に渡る浸水被害が発生しました。今後も日本海溝・千島海溝型地震の発生が予測されることから、下北八戸沿岸地区の3河川（五戸川、奥入瀬川、明神川）において、平成23年度より地震・高潮対策河川事業に着手し、河川堤防の耐震液状化対策や堤防嵩上げによる津波対策を進めています。（明神川：平成27年度完成）



五戸川河口部の津波被害状況（平成23年3月12日撮影）

(3) 駒込ダム建設事業

青森市街地はこれまで堤川の氾濫により、昭和44年8月、昭和52年8月、平成11年10月と度重なる洪水被害を受けてきました。特に昭和44年8月の台風第9号による大雨は、堤川の本・支川で氾濫を引き起こし、浸水家屋8千戸を超える未曾有の大水害となりました。

そこで青森県では、堤川水系の抜本的な治水対策として、河道整備と併せて堤川本川に下湯ダム（昭和63年度完成）、駒込川に駒込ダム、横内川に横内川多目的遊水地（平成15年度完成）を整備して、堤川水系の治水安全度を概ね1/100まで向上させる治水計画を立案し、計画的に整備を進めてきました。

現在建設を進めている駒込ダムは、洪水調節、流

水の正常な機能の維持、発電を目的とした、堤高84.5m、堤頂長290.1m、堤体積317,000m³の重力式コンクリートダムです。

本事業は、昭和57年度に実施計画調査に着手、平成5年度に建設事業採択、平成31年度に本体建設工事着工となり、令和13年度の完成を目指して進めています。



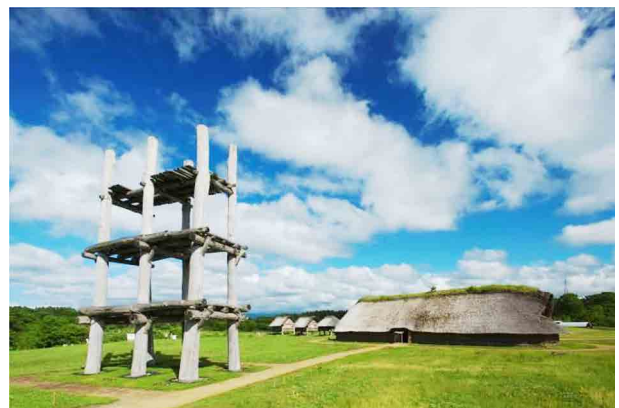
駒込ダム（完成イメージ）

【東北地方治水大会の開催】

今年度の東北地方治水大会は10月21日(月)に青森市で開催されます。

開催地の青森市にある国内最大級の縄文集落遺跡である特別史跡「三内丸山遺跡」は、縄文時代中期から後期に栄えた集落跡で、多くの竪穴式住居跡や、貴重な土器、石器、土偶などがご覧いただけます。

また、三方を海に囲まれ、豊かな自然が残る本県は、新鮮な海の幸・山の幸のほか、多くの名産品もございますので、是非、この機会にご堪能いただきたいと思います。



三内丸山遺跡

北陸地方治水大会の開催について(ご案内)

令和元年10月17日(木) 13:10～
新潟市 ANAクラウンプラザホテル新潟
新潟県土木部河川管理課

令和元年度北陸地方治水大会の事務局を担当します新潟県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。関係各位の多数のご参加をお願いいたします。

【新潟県のすがた】

新潟県は、本州の日本海沿岸のほぼ中央に位置し、朝日山地、飯豊山地、越後山脈が東側に連なり、西側には妙高山などの山々がそびえております。これらの山岳地帯を源として信濃川、阿賀野川など数多くの河川が日本海にそそぎ、越後平野、高田平野など広大で肥沃な平坦地を形作り、全国有数の米どころ産地となっております。

面積は12,584km²で全国第5位、人口は約224万人で全国第15位となっております。また、本州側の海岸線は330.9kmと非常に長く、その海岸線は多様な自然景観・環境を有し、変化に富んだ海岸美を形成しており、毎年県内外から多くの利用者が訪れています。

新潟市の北西約45kmの日本海上には佐渡島があり、その北東には粟島があります。

佐渡島は、周囲280.9km、面積855km²と日本最大の離島であり、北の大佐渡、南の小佐渡を山脈が平行に走り、中央部には国中平野が広がっております。その佐渡島では、平成15年に日本の野生のトキが絶滅しましたが、平成24年にトキのヒナが36年ぶりに自然界で誕生し、38年ぶりに無事巣立ちました。そして、平成28年には、42年ぶりに野生化生まれのトキ同士から誕生した「純野生」のヒナが巣立ち、現在、佐渡の自然界では369羽の生息が確認され、野生復帰が順調に進んでいます(平成30年11月時点)。



佐渡島内で悠々と羽ばたくトキ (提供：環境省)

【河川の現状】

新潟県は、我が国最長の信濃川をはじめとして荒川、阿賀野川、関川、姫川の一級水系767河川と二級水系399河川を合わせた合計1,166河川、総延長約5,165kmを有しております。そのうち延長約4,892kmが、新潟県管理河川となっており、県では限られた予算の中で早期に浸水被害の解消、軽減を図るため、水害対応等、河川の重点的整備や河道流下能力の低い箇所の一時的な施工により安全度を段階的に引き上げるなど、効果的、効率的な整備を進め、防災・減災などによる安全・安心の向上を図っているところです。

【近年の災害発生状況と今後の取り組み】

新潟県は、過去においても多くの災害を経験しており、近年では、気候変動の影響等から集中豪雨による浸水被害を受け、尊い人命と貴重な財産が失われております。

特に平成16年7月の7.13新潟豪雨水害では、一級河川五十嵐川や刈谷田川など6河川11か所で破堤するなど、死者15名、住宅の全半壊及び床上・床下浸水13,800棟以上の被害が生じました。そして、平成23年7月新潟・福島豪雨では、一級河川五十嵐川をはじめ6河川9か所で破堤するなど、死者及び行方不明者5名、住宅の全半壊及び床上・床下浸水9,500棟以上になるなど甚大な被害が生じました。

この平成23年7月新潟・福島豪雨は、平成16年の7.13水害を上回る規模の降雨でしたが、7.13水害を契機に整備した刈谷田川の遊水地などの治水対策事業が効果を発揮し、浸水被害を軽減させました。

また、これらの豪雨で甚大な被害が生じた五十嵐川では、災害復旧助成事業による遊水地の建設や上流の笠堀ダムの嵩上げなどの治水対策を実施し、平成29年度に事業が完了しました。



嵩上げ工事が完了した笠堀ダム

平成29年には、6月末から7月末の間に3回の梅雨前線豪雨に見舞われ、建物の全半壊及び床上・床下浸水1,200棟以上の被害が生じました。このため、被害の大きかった西又川で改良復旧事業を実施するなど、治水対策を進めています。

県では、引き続きハード対策の推進に取り組むとともに、想定最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図の作成推進による市町村の洪水ハザードマップの作成支援、水位計や河川監視カメラの設置推進による住民主体の避難行動及び市町村の適切な避難情報発令への支援など防災・減災のためのソフト対策の充実を図り、ハード対策とソフト対策を一体的・総合的に推進してまいります。

また、高度成長期に建設された河川施設やダム等の公共土木施設の老朽化が急速に進行しており、今後、更に機能の補修や更新が必要となる施設が増大することが予想されております。

これら施設の本来の機能を将来にわたり発揮させ、県民に安全で安心な社会資本を提供するため、必要な維持管理・補修が行えるよう、河川や道路などの12施設について、社会資本維持管理計画を策定し、平成26年6月に公表しました。

今後も本計画に基づき必要な点検・調査等を行ったうえ、予防保全によるトータルコストの縮減を図りながら、計画的かつ効果的な維持管理を進めるよう努めてまいります。

【北陸地方治水大会の開催】

さて、10月17日(木)に北陸地方治水大会を新潟市で開催いたします。

大会が開催される10月は、「第34回国民文化祭・にいがた2019」「第19回全国障害者芸術・文化祭・にいがた大会」(9月15日～11月30日)の開催期間中であり、県内を7つのエリアに分け、地域の文化特性等を踏まえたテーマに基づき、特色のある催しが行われています。

また、「新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーン」(10月1日～12月31日)が、「日本海美食旅」をテーマとして開催されています。

実りの秋にコシヒカリや新ブランド米である新之助など「食」を始めとした本県の様々な魅力を是非堪能していただければと思います。

皆様のご来県を心からお待ち申し上げます。



新ブランド米の新之助

中部地方治水大会のご案内

令和元年10月23日 午後1時30分
静岡市 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
静岡県交通基盤部河川砂防局

令和元年度中部地方治水大会の事務局を担当します静岡県から、本県のPRも含め大会をご案内申し上げます。関係各位の多数のご出席をお願い申し上げます。

【静岡県のすがた】

本県は、東西に約155km、南北に約118km、面積は約7,780km²で、県土の北側には、世界文化遺産である富士山やユネスコエコパークに登録された南アルプスなど3,000m級の山々が連なっております。一方、南側には最大水深2,000mを超える駿河湾やユネスコ世界ジオパークに認定された伊豆半島を抱え、急峻かつ変化に富んだ地形を有しています。



(写真1) 三保松原から望む富士山

【河川の概要】

静岡県には、一級、二級合わせて533河川およそ2,863kmの河川が流れております。その特徴としては、富士山や南アルプスが背後にあることから急流河川が多く、一級河川の富士川、安倍川、大井川は土砂供給量も豊富なことから、駿河湾や遠州灘の海岸線を形成してきました。一方で、巴川、沼川、新川などの県管理河川は、緩勾配で海岸線に沿って東西に流れ、排水が困難で水害を起こしやすい特徴もあります。過去より幾度となく、台風や豪雨による水害に見舞われており、とりわけ昭和33年の狩野川台風、昭和49年の七夕豪雨、昭和57年の台風10号、平成2年の秋雨前線豪雨、平成15年、平成16年、平成26年には各地で水害や土砂災害が発生するなど、地域の安

全・安心のため、継続して治水対策に取り組んでいく必要がある地域でもあります。

【近年の浸水被害と治水対策】

静岡県内で、近年大きな浸水被害が発生したのは、平成26年10月の台風18号です。この台風は、伊豆市天城高原で連続雨量721ミリ、最大時間雨量72ミリを記録し、静岡市を流れる巴川をはじめ県内17河川18地点で氾濫危険水位を超過し、静岡市や沼津市など16市町で、床上・床下併せて1,800戸を超える浸水被害が発生しました。

浸水家屋が1,000棟を超えた巴川流域は、2万6,000棟を超える浸水被害が発生した昭和49年7月の七夕豪雨以降、総合治水対策特定河川の選定を受け、巴川本川の拡幅、大谷川放水路の開削や上流部への遊水地の整備を段階的に進めており、平成21年度からは「特定都市河川浸水被害対策法」を適用し、静岡市の下水道事業等と連携した「総合的な浸水被害対策」を推進してきました。今回の被害を受け、県と市では「巴川流域における浸水被害軽減に向けた行動計画」を策定し、上流部の遊水地整備の前倒しや巴川本川下流部の河川整備の追加、下水道事業の着実な推進による床上浸水被害の早期軽減策の実施に加え、ハザードマップの周知・啓発などの地域防災力を向上させる治水対策を進めています。



(写真2) 台風18号で増水した巴川と浸水被害

県東部地域を流れる沼津市の沼川流域においても、50棟を超える浸水被害が発生しました。本流域は、昭和51年8月洪水などを契機に抜本的な治水対策として新放水路整備を計画に位置付け、用地買収などを進めてきました。本年度は「大規模特定河川事業」に

新規採択され、海岸防潮堤部の本格的な工事に着手するなど、早期の浸水被害軽減に向けた施設整備に着手に取り組んでいます。

近年、全国で多発する大規模洪水等に対し、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」再構築に向けた減災対策の取組が進められています。本県においても、「逃げ遅れによる人的被害をなくすこと」、「氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること」を減災目標とし、計画的な河川整備の推進、「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」による樹木伐採や堆積土砂撤去によるインフラ強化、想定最大規模の洪水浸水想定区域図や洪水ハザードマップの作成、危機管理型水位計による水位情報の提供など、関係機関が連携し、ハード対策とソフト対策が一体となり、減災対策に取り組んでいます。



(写真3) 緊急対策による河床掘削（瀬戸川・焼津市）

【静岡県の地震・津波対策】

静岡県は506kmの海岸線を有していることから津波対策も推進しています。南海トラフの巨大地震等による地震・津波対策として、平成24年12月に策定した「今後の地震・津波対策の方針」に基づき、地震や津波の発生時期や規模などあらゆる可能性を考慮しつつ、人命を守ることを最も重視し、ハード・ソフトの両面からできる限りの対策を組み合わせることで、想定される被害をできるだけ少なくする「減災」を地震・津波対策の基本理念に据えました。平成25年6月には、行動目標である「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013」を策定し、想定される犠牲者を今後10年間で、8割減少させることを目指して、対策に取り組んでいます。特に、津波対策を進めるにあ

たっては、地域の意見を取り入れ、地域の特性を踏まえた最もふさわしい津波対策「静岡方式」を県下全域で進めています。



(写真4) 津波対策（勝間田川水門・牧之原市）

【中部地方治水大会の開催】

本年度の中部地方治水大会は、10月23日（水）に静岡市で開催いたします。

特別講演では、日本放送協会静岡放送局の横尾泰輔様から、災害時の情報発信と報道機関との連携などに関してのご講演をいただくこととしております。

結びに、開催地となります静岡市には、徳川家康が築いた駿府城の城跡である駿府城公園、富士山の雄大な姿を眺望できる日本平の「夢テラス」や富士山世界遺産の構成資産である「三保松原」があり、歴史や風光明媚な景色を楽しんでいただくこともできます。また、駅周辺には多くの飲食店があり、大会前の昼食で静岡おでんや駿河湾でとれた新鮮な魚料理などに舌鼓を打っていただくのもよろしいかと思います。

皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

近畿地方治水大会の開催について

令和元年10月24日(木) 13:00～

神戸市 兵庫県看護協会「ハーモニーホール」
事務局 兵庫県県土整備部土木局河川整備課

令和元年度近畿地方治水大会の事務局を担当します兵庫県から、本県のPRと大会のご案内をさせていただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

【兵庫県のすがた】

兵庫県は日本の中央部に位置し、面積8,401km²、北は日本海、南は瀬戸内海に面しており、東西に連なる中国山地によって、県土を南北に二分しています。淡路島や家島諸島などの島嶼部は南側に集まっています。県北部は概して急峻な地形で、冬季に降水量が多く、円山川などが日本海へ向かって北流する一方、県南部では平野部も多く、比較的降水量の少ない温暖な気候で、加古川や揖保川などが瀬戸内海へ流れ込んでいます。本県中央部に位置する丹波市には、標高100mを切る本州では最も低い中央分水界があり、日本海側と瀬戸内海側に分かれて流れていくところを間近に見ることができます。

また、本県は、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の旧5カ国の地域に広がっていることから、それぞれの地域には異なる多様な歴史・文化が息づくとともに、多彩な人々の生活が営まれ、「日本の縮図」とも評されています。昨年度は県政150周年を迎え、「五国」の地域性や内面的な個性・違いを切り口に、県民みんなの声で地域の魅力を再発見していく取組みを実施しているところ です。



【河川の現況】

本県には、一級河川5水系、327河川、二級河川92水系、358河川、合計97水系、685河川があり、これら河川法の適用される河川の総延長は3,494kmに及びます。

また、一級河川のうち、直轄河川管理区間は180km、指定区間は1,593kmとなっています。

【社会基盤整備の進め方】

本県では、平成13年度から、各県民局ごとに社会基盤整備プログラムを策定し、地域の課題やニーズを的確に捉え、安全・安心で豊かさが実感できる県土づくりを効率的・効果的に進めています。

これまでの事業の進捗状況等を踏まえるとともに、河川、高潮、津波等の課題に対応するため策定する分野別計画を反映させ、自然災害に「備える」、日々の暮らしを「支える」、次世代に持続的な発展を「つなぐ」の3つの視点で、昨年度末に改定を行ったところです。

河川改修等については、「備える」～自然災害に備える防災・減災対策の強化～として、ハード・ソフト対策を総合的に取り組んでいます。

社会基盤整備プログラムの概要

- ①目的
地域の課題やニーズを的確に踏まえた社会基盤整備を計画的・重点的に推進
- ②対象事業(総事業費1億円以上を対象)
土木・農林所管の社会基盤整備事業
- ③対象施設
道路、河川、砂防、港湾、下水道、等
- ④計画期間
10年間(令和元～10年度)
前期:令和元～5年度 後期:令和6～10年度
- ⑤事業箇所の基本的な考え方
・分野別計画に位置つけた事業を重点実施
・分野別計画以外でも、地域創生支援、地域課題の解決に資する事業を重点実施

【総合治水対策の取り組み】

近年、開発や都市化の進行、多発する局地的大雨により、従来よりも雨水の流出が増え、浸水による被害が拡大しており、これまでの“ながす”対策(河川下水道対策)に加え、雨水を一時的に貯める・地下に浸透

させる“ためる”対策（流域対策）や、浸水してもその被害を軽減する“そなえる”対策（減災対策）を組み合わせた『総合治水』の取組が重要となっています。

そのため、本県では、平成24年4月施行の「総合治水条例」に基づいて、県下11地域ごとに地域総合治水推進計画を策定し、県・市町・県民が連携した総合治水を推進しています。

1 “ながす”対策（河川対策）

災害を未然に防止するための河川対策の推進。流出能力の不足に対応した河道対策、洪水調節池等による都市浸水対策、高潮の影響による浸水被害を防ぐ対策、河川中上流部治水対策、災害を未然に防止するための河川対策、およびダムによる対策など、地域の状況に適した取り組みを計画的に推進しています。

① 流下能力の不足に対応した河道対策

各河川の状況に応じて流下能力を向上させるための河道拡幅等、河積を拡大する対策を推進



法華山谷川（高砂市）令和2年5月完成予定

② 洪水調節施設による都市の浸水対策

近年頻発化する都市部の浸水被害を軽減させるため、貯留管や調節池等の浸水対策を推進



船場川調節池（姫路競馬場内）平成31年3月完成

③ 河川中上流部治水対策の推進（H28～）

河川中上流部のうち、越水による家屋の浸水実績があるなど、治水安全度の低い箇所において、上下流バランスに配慮しながら、パラペット整備などの緊急的かつ暫定的な治水安全度向上対策を推進



越知川（神河町）

④ ダムによる対策の推進

県の管理するダムは21あり、堤体の嵩上げ等既存ダムを有効活用する「ダム再生」に取り組む。

また、県管理の3ダムにおいて、降雨前に利水容量の一部を放流して洪水調節容量を増加させる事前放流を継続実施



ダム再生を計画している引原ダム（宍粟市）

⑤ 地震・津波対策等の推進

南海トラフ地震に備えた津波対策等は、「津波防災インフラ整備計画」に基づき、推進

日本海側の地震に備えた津波対策は、「日本海津波防災インフラ整備計画」に基づき、推進



本庄川水門（南あわじ市）整備イメージ

2 “ためる”対策(流域対策)

雨水を一時的に貯留したり、地下に浸透させることにより、流出を抑制する流域対策を推進しています。

具体的には、校庭貯留、各戸貯留、田んぼダム、ため池の治水活用、調整池の設置・保全、利水ダムの治水活用等に取り組んでいます。これまでの取組により、平成30年度末時点で、県立高校等の校庭・水田貯留・ため池等により約660万m³の雨水貯留量(東京ドーム5杯分)を確保しました。

① 県有施設での雨水貯留浸透施設の整備

県民や市町等の主体的な取組を促すため、県有施設で雨水貯留浸透施設等の整備を率先実施

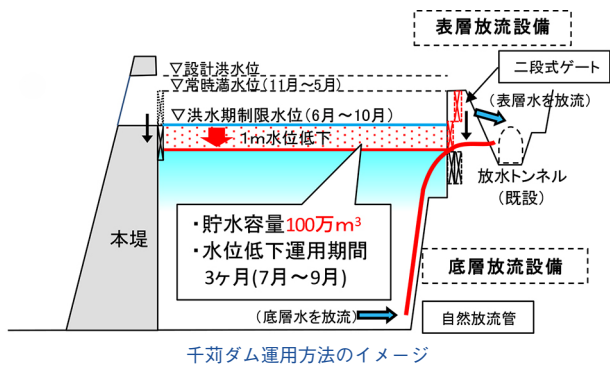
② ため池の治水活用

ため池所有者・管理者に働きかけ、ため池施設等の改良や大雨時の事前水位下げ等を実施し、利水容量の一部を治水容量として活用

また、ため池治水活用の拡大促進に向け、管理者が台風期に行う期間放流の取組を支援するため、補助事業(ため池治水活用拡大促進事業)を創設

③ 利水ダムの治水活用(千苅ダム)

武庫川流域の約1/5の集水面積を持つ「千苅ダム(神戸市の水道専用ダム)」において、7月～9月の3ヶ月、ダムの貯水位をあらかじめ1m低下させて水位を維持するための放流設備を設置し、治水活用のための空き容量100万m³を確保する。



千苅ダム運用方法のイメージ

3 “そなえる”対策(減災対策)

災害時に県民的確な避難判断・行動、市町の水防活動及び避難勧告発令等を支援するため、迅速・的確な災害危険情報の発信、防災知識の普及・啓発による県民の自助意識の喚起、防災訓練等による災害対応能力の向上等、減災対策を推進しています。

(1) 迅速・的確な災害危険情報の発信

① 県民への情報発信

ホームページ等で河川水位・雨量、河川監視カ

メラ画像を発信している。

ア 河川水位・雨量情報の発信

河川水位198箇所・雨量情報303箇所

イ 河川監視カメラ画像の発信

河川監視カメラの映像情報をNHK神戸放送局に提供し、ニュース番組やデータ放送等でリアルタイム画像を放送。また、インターネットでも河川監視カメラ(95河川134箇所)のリアルタイム画像を発信。

ウ CGハザードマップの発信

洪水浸水想定区域図(計画規模降雨1/50～1/100年)や過去の台風等による浸水実績図等を公開し、県民的確な避難行動を支援



CGハザードマップのトップ画面

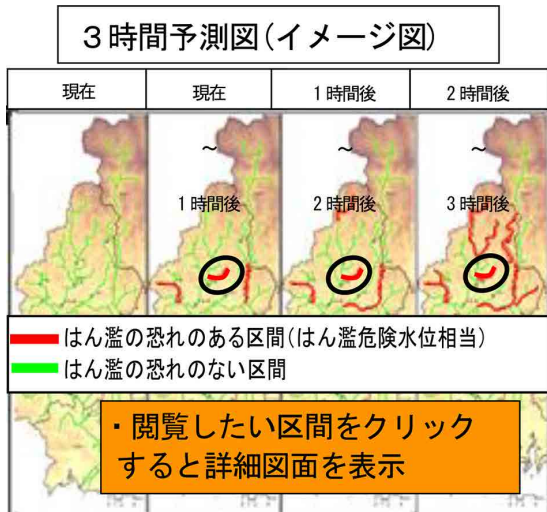
エ 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域等の公表

新たに「想定し得る最大規模の降雨」による「洪水浸水想定区域」と「浸水継続時間」、「家屋倒壊等氾濫想定区域」の公表を順次進めており、令和2年度の出水期までに県管理全680河川で公表予定

② 市町等への情報発信

ア 避難勧告等の発令を支援する氾濫予測情報の発信

3時間先までの水位を予測し、氾濫のおそれの有無を数キロ毎に地図に表示して市町等へ配信。降雨予測情報の精度向上や激甚化する洪水被害を踏まえ、6時間後までの水位を予測するシステム見直しを令和2年6月から運用予定



(2) 県民の自助意識の喚起

① 防災知識の普及・啓発活動への取り組み

ア CGハザードマップの普及

県立高校での体験学習や広報紙、テレビ・ラジオ等を通じて、CGハザードマップのPRを実施

イ 出前講座等の実施

小学生や自治会など一般県民を対象に、防災出前講座等を市町と連携して実施

ウ 県下全小中学校等における防災教育の促進

若年層や教員等への総合治水のさらなる普及・啓発を目的に、授業等で活用できるよう防災教育資料集を作成し、県下全小中学校、高校へ配布



出前講座の状況

【昨年の災害】

昨年7月3日から8日にかけて、梅雨前線等の影響で西日本では記録的な大雨となり、本県で初めての大雨特別警報が発表され、浸水・土砂・流木等による被害が県内各地で発生し、2人の方が亡くなりました。

その後も、台風第20号、第24号等による被害が発生しました。とりわけ、9月4日に神戸市に上陸した台風第21号は非常に強い勢力のまま接近し、過去最大風速に迫る強風を起こすとともに、高潮・高波をもたらし、

複数の観測所で過去最高潮位を記録しました。これにより阪神地域沿岸部では高潮が河川を遡上し、浸水被害が発生しました。

これら豪雨や台風による災害復旧事業の件数は、河川災害457件、砂防災害61件、計518件となっており、早期に災害復旧事業の完了を目指すとともに、再度災害の防止対策に取り組んでいます。

なお、被害が甚大で技術職員が不足する宍粟市が地域関連事業を申請するに際し、本県及び(公財)兵庫県まちづくり技術センターは、被災状況の調査、改良計画の立案及び実地査定の補助など、宍粟市の全面的な支援を行い、提案どおり採択されるに至りました。



実地査定における支援の状況

上記の取組等について、写真やトピックス等を含め、県のHPに掲載していますので、ご覧ください。

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks01/index01.html>

【近畿地方治水大会の開催】

本年度の大会は、10月24日(木)に兵庫県看護協会「ハーモニーホール」において、開催いたします。特別講演は、京都大学大学院教授の立川康人様より、「気候変動が豪雨および洪水発生の頻度・強度に及ぼす影響について(仮題)」をテーマにご講演をいただくことになっています。

近畿地方における治水事業を取り巻く現状や課題をご理解いただくとともに、治水事業に係る今後の施策決定や予算確保の推進につながる重要な大会となりますので、多くの皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

中国地方治水大会の開催について(ご案内)

令和元年10月8日(火) 13:00~
岡山市 さん太ホール
岡山県土木部河川課

今年度の中国地方治水大会事務局を担当します岡山県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【岡山県のすがた】

岡山県は、南は瀬戸内海をはさんで四国に、北は山陰地方に、東は兵庫県、西は広島県に接し、昔から中四国地方の交通の要衝として重要視されてきました。県南部は穏やかな瀬戸内海とそこに浮かぶ多くの島々が美しい自然を形成し、県北部では緑豊かな山々と全国的に有名な美作三湯(みまさかさんとう)と呼ばれる3つの有名な温泉地に恵まれています。

県の面積は約7,114km²で全国17番目、人口は約191万人で全国20番目(平成29年10月1日、総務省「人口推計」)となっており、気候は降水量1mm未満の日数が全国第1位であることから、「晴れの国おかやま」をキャッチコピーにPRしています。

産業では、製造品出荷額は全国上位にランクされ、「ものづくり」産業が岡山県経済の特徴となっており、特に倉敷市の水島コンビナートは西日本最大の素材供給拠点であるほか、石油、化学、鉄鋼、輸送用機械など多彩で厚みのある産業が集積しています。また、温暖な気候と高度な生産技術を生かし、全国有数の質の高い農業が営まれており、中でも清水白桃、マスカット、ピオーネは、全国一の生産量と品質を誇ります。

日本三名園の一つである岡山後楽園や岡山城、情緒豊かな町並みが楽しめる倉敷美観地区などがあり、国内外から多くの観光客が訪れています。



<岡山後楽園>



<岡山のフルーツ>

【河川の現況】

中国山地に源を発し、岡山県を縦断して瀬戸内海に流れ込む3河川(吉井川、旭川、高梁川)は、良質で豊かな水をたたえており、古来から生活、産業、農業、運輸等に利用され、沿川地域の文化・風土の形成に大きく寄与してきました。

特に、江戸時代には瀬戸内海沿岸で大規模な干拓が進められると、河川からの取水を網目のように張り巡らせた用水路を利用して新田開発を推し進め、農業生産力を飛躍的に向上させるとともに、優れた土木技術により治水対策が同時になされることで、利水と治水を両立させるなど近代岡山の礎を築き上げるのに大きな役割を担うこととなりました。

河川法の適用を受ける河川は、一級河川は吉井川水系など4水系の458河川、延長は約2,545.7kmで、二級河川は笹ヶ瀬川水系など22水系の64河川、延長は約269.7kmとなっています。

【近年の浸水被害と治水対策】

岡山県では、これまで平成10年の台風第10号や平成23年の台風第12号など大規模な災害を経験してきましたが、昨年の平成30年7月豪雨はこれまで経験したことのない規模の災害となりました。

7月6日に岡山県で初めてとなる大雨特別警報が2市1町を除く県内全域で発表され、7月5日から7日にかけて、梅雨前線が本州付近に停滞し、断続的に激しい

雨が降り、県北では400mm超、県南では300mm前後の累加雨量を記録しました。

これにより、一級河川高梁川水系高梁川や小田川、一級河川旭川水系砂川をはじめ、多くの河川で氾濫危険水位を超過し、観測史上最高水位を記録するとともに、堤防決壊や越水による外水氾濫に加え、内水氾濫が多くの箇所が発生したことにより、倉敷市真備町や岡山市東区をはじめ、広範囲において甚大な浸水被害をもたらしました。

県内では、災害関連死を含め81名の尊い命が失われ、現在も3名が行方不明となっています(令和元年8月23日現在)。住家被害が約16,400棟、断水や道路・鉄道などの寸断により、住民生活はもとより産業や物流、観光にも大きな影響を生じました。

国管理の小田川、県管理の末政川外2河川では、発災から2ヶ月後の9月7日に「真備緊急治水対策」として、国・県が連携して緊急的・集中的に小田川合流点付替え、堤防嵩上げ、堤防強化対策等のハード対策を概ね5年間で事業費約500億円をかけて実施することが決定しました。その後、本年2月8日に「真備緊急治水対策(ハード対策)」と多機関連携型タイムラインの策定などのソフト事業が一体となった「真備緊急治水対策プロジェクト」として、国・県・倉敷市が連携して取り組む方針を発表しました。

また、砂川においては、河川激甚災害対策特別緊急事業に、高梁川においては、河川激甚災害対策特別緊急事業、河川災害復旧等関連緊急事業に採択され、未被災区間を含めた一連区間において、築堤、河道掘削などを今後、概ね4～5年で実施することとしています。

近年の気候変動の影響等により集中豪雨が増える傾向にあり、河川の早期整備が喫緊の課題となっていますが、近年の河川事業予算減少の影響等から、岡山県の河川整備率は、平成30年度末で37.6%と極めて低い整備水準にとどまっています。

そのような状況の中、従来の河川改修では効果発現までに多大な事業費と期間を要することから、即効的な対策として、平成22年度から「ふるさとの川リフレッシュ事業」を実施しています。これは、土砂の堆積や樹木の繁茂により河道が阻害され、従来の維持管理では対応が困難な大規模な箇所について、浚渫土の処分場確保、伐採木の処分受け入れ等、市町村との

協働の取組により浚渫や樹木伐採を行うもので、厳しい財政状況の中、コスト削減を図りながら洪水被害リスクの軽減に取り組んでいます。



<倉敷市真備町>



<岡山市東区>

【中国地方治水大会の開催】

10月8日(火)に令和元年度中国地方治水大会を岡山市で開催いたします。

この大会では、元NHK解説委員で、現在は国士舘大学防災・救急救助総合研究所で災害情報や防災行政の研究をされている山崎登教授に講演をしていただくこととしています。

また、岡山市、倉敷市には、平成30年7月豪雨災害を踏まえた意見発表を行っていただきます。

岡山県には、瀬戸内の海の幸や旬の果物のほかにも、B-1グランプリをきっかけにブレイクした「ひるぜん焼きそば」、「津山ホルモンうどん」、「日生カキオコ」などのご当地グルメも多くあります。開催地の岡山市でも、岡山が誇る郷土料理「ばら寿司」やデミグラスソースで食べる「デミカツ丼」といったご当地グルメが堪能できますので、お越しの際にはぜひお試しください。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

四国地方治水大会の開催について(ご案内)

令和元年10月18日 13:30～
高松市 JRホテルクレメント高松
香川県 土木部 河川砂防課

今年度の四国地方治水大会事務局を担当している香川県から、本県のPRも含め御案内申し上げます。関係者の多数の御参加をお願いいたします。

【香川県のすがた】

香川県は、四国の東北部に位置し、総人口は約96万人、総面積は約1,877km²と全国で最も小さい県です。地形は北向きの半月型で、南部には讃岐山脈、北部には讃岐平野が展開し、北は備讃瀬戸、西は燧灘に面しています。

また、海岸線の延長は約724kmで、海面には大小116の島が点在し、風光は非常に美しいものがあります。

四季を通じて温暖少雨で、明るい瀬戸内海の気候に恵まれている香川県は、万葉集にも、「玉藻よし讃岐の国は国がらか見れども飽かぬ」と詠われています。



史跡高松城跡 玉藻公園

【河川の現況】

香川県の河川は、一級河川が2水系・16河川・延長87km、二級河川が79水系・275河川・延長1,008kmであり、この他に準用河川が116河川・延長83km指定されています。

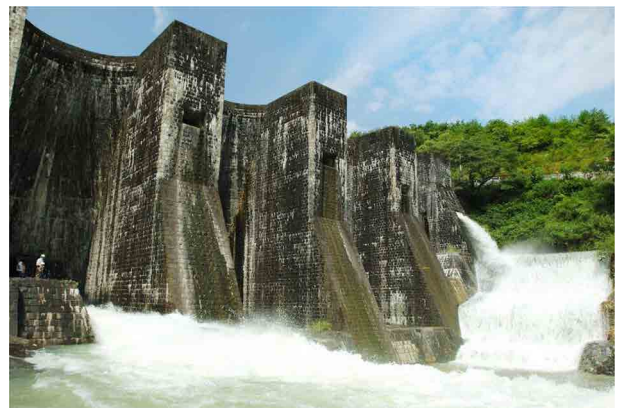
香川県の河川は、その水系の多くが讃岐山脈に源を発し、山間部では急勾配で流れ、平野部で急変して緩やかとなり、扇状地を形成しながら瀬戸内海に流れ込んでいます。

気候は、瀬戸内式気候に属し、気象庁の最近30年間(平成元年～平成30年)のデータによると、年間の平均降水量は、1,181mmで、四国4県平均1,730mmの約3分の2です。

しかも、降雨は梅雨期と台風期に集中し、平常時は

河道にほとんど流水が見られない河川が多い一方で、洪水になると短時間のうちに流下します。

このため、平成16年のような台風や集中豪雨の際には、洪水の被害に見舞われており、治水対策として河川改修などに努めています。また、渇水時には、農業用水を確保するための水争いが古来より数多く記録され、これまで、14,619に及ぶため池や15の県管理ダムを築造してきましたが、近年、気候変動に伴う降水量の減少や無降雨期間の長期化により、平成6年の大渇水のほか、過去30年の間で20年間も香川用水の取水制限が行われるなど、水を取り巻く状況は厳しくなっています。



豊稔池(石積式5連マルチプルアーチダム)

【近年の浸水被害と今後の取り組み方針】

平成16年には、台風16号による高潮被害、台風23号による水害・土砂災害被害など、計9個の台風により、全国一狭い県土に、その年は、水害による被害額が全国3位となる記録的な被害が発生しました。また、平成23年度にも4個の台風が襲来し、県内各地で甚大な被害が発生しました。



台風による春日川での被害状況(平成16年度)

高松市東部を流れる春日川では、平成16年の台風23号による洪水により、甚大な浸水被害が発生したため、「河川激甚災害対策特別緊急事業」として重点的に整備を進め、平成22年8月に事業が竣工しました。その他、県内を流れる11水系12河川においても、事前防災の観点から、計画的に河川改修工事を実施しています。



本津川における河川改修事業

また、近い将来発生が予測されている南海トラフを震源とする地震の被害想定を踏まえた河川堤防等の地震・津波対策については、発生頻度が比較的高く、津波高が低いものの大きな被害をもたらす津波、いわゆるL1津波と、L1津波を引き起こす地震に対応する地震・津波対策として、平成27年3月に策定した「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に基づき、10年ごとにⅠ期からⅢ期に区分し、概ね30年で優先箇所から重点的・集中的に対策工事を実施することとしています。

優先度の高い箇所は、Ⅰ期計画として、平成27年度から10年間で整備することとし、そのうち、地震直後に堤防等が沈下し、甚大な被害が想定されるなど、特に優先度が高い箇所は、前期の5年で整備することとしています。

【四国地方治水大会の開催】

最後になりましたが、本大会は、「JRホテルクレメント高松」を会場とし、多島美で知られる瀬戸内海を背

景に開催されます。

また、本大会が開催される10月18日には、「瀬戸内国際芸術祭2019」の秋会期が開催されています。「海の復権」をテーマに3年に一度、開催されており、今年で4度目の開催となっています。春、夏、秋の総計107日間の会期で、小豆島、直島、豊島など14の会場を舞台に、島ならではの自然や風景を生かしたアート作品を展示しています。本大会の会場である「JRホテルクレメント高松」の周辺にも様々なアート作品が展示されていますので、瀬戸内海の風を感じながら、ご覧になってみてください。

また、香川県は「うどん県」と呼ばれるほど、全国的に有名な「讃岐うどん」の本場です。うどんはもちろんですが、骨付き鳥や瀬戸内の豊かな海が育んだ魚も香川県の名物として知られています。御来県の皆様には、うどんだけでなく様々なグルメを堪能していただきたく思います。

この機会に是非、本県にお越し頂き、香川県の多彩な魅力を発見してみてください。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。



サンポート高松周辺のアート

九州地方治水大会の開催について(ご案内)

令和元年10月15日 14:15～
福岡市 アクロス福岡
福岡県 県土整備部 河川整備課



(シーサイドもち)



(中洲の夜景)

【福岡川県のすがた】

福岡県は、総面積が4,986km²で、九州の北に位置し、九州と本州を結ぶ交通の要衝であり、また、古くからアジアの玄関口としての役割を果たしています。

福岡県の北部には、玄界灘、響灘、周防灘が西南部には有明海が広がっています。三郡山地、背振山地、筑肥山地、耳納山地など山地部があり、これらの間を筑後川、矢部川、遠賀川などの川が流れ、川沿いには平野が広がり豊かな自然に恵まれています。

本県の気候は北部が日本海型気候、南部が内陸型気候に大別され比較的温暖な気候といえますが、台風、梅雨前線の影響を強く受け、災害の発生も多い地域です。

【河川の状況】

福岡県には、筑後川、矢部川、遠賀川、山国川及の一級河川4水系193河川を始めとして、二級河川52水系149河川準用河川を含めると計648河川が流れています。福岡県ではこのうち334河川、約1,915kmの管理を行っています。

【近年の浸水被害と治水対策】

本県における近年の主な浸水被害は、平成11年6月及び平成15年7月の梅雨前線豪雨による洪水などがあります。最近では平成21年7月の中国・九州北部豪雨、平成24年7月九州北部豪雨や平成29年7月九州北部豪雨や平成30年7月豪雨があり、いずれも県内で甚大な浸水被害が発生しました。

(1)平成29年九州北部豪雨

九州北部地方では、平成29年7月5日から6日かけて停滞した梅雨前線により、猛烈な雨が降り続けました。特に福岡県朝倉市、東峰村及び大分県日田市を中心に記録的な豪雨となり、5日17時51分には、九州で初めて「大雨特別警報」が気象庁から発表されました。

朝倉市黒川の観測所ではわずか9時間で774mmという記録的豪雨により、朝倉市、東峰村及び添田町を中心とした山間部で多数の山腹崩壊が発生し、河川の氾濫に加えて大量の土砂・流木が広範囲に流出するなど、これまでに例のない甚大な被害が発生しました。

この一連の災害に対しては、原形復旧の災害事業の外に、河川等災害関連事業・河川等災害復旧助成事業・災害復旧事業(一定災)・河川災害復旧等関連緊急事業の採択を受けました。

特に、大量の土砂・流木により甚大な被害が発生した赤谷川流域については、河川法の改正で新たに創設された制度を活用し、全国で初めてとなる県に代わって国土交通省が災害復旧工事を実施する「河川の権限代行」を要請し、実施していただくこととなりました。

現在、原形復旧箇所、改良復旧箇所ともに、鋭意工事を進めており、早期復旧を目指しております。

- 河川災害復旧等関連緊急事業 桂川流域
事業区間:L=14.5km
- 河川等災害関連事業 佐田川流域
事業区間:L=4.9km

○河川等災害復旧助成事業

桂川流域 事業区間:L=9.5km
 大肥川流域 事業区間:L=16.18km

○災害復旧事業(一定災)

赤谷川流域<権限代行>
 事業区間:L=13.85km
 白木谷川 事業区間:L=1.81km
 北川 事業区間:L=3.4km



(白木谷川(左)、赤谷川(右)の土砂流出状況)

(2)平成30年7月豪雨

平成30年7月5日朝から7日朝にかけて、県内の広い範囲で大雨が降り続き、県内全市町村に大雨・洪水警報、さらに、そのうち8割以上の市町村で、「大雨特別警報」が発表されました。

那珂川市で602mmを観測したのをはじめとし、北九州市、久留米市など気象庁の県内20観測地点のうち、7地点で48時間雨量の観測史上最大を記録し、久留米市、飯塚市で甚大な浸水被害が発生するなど県内49河川で浸水被害が発生しました。

そのうち、甚大な浸水被害を生じた筑後川水系山ノ井川、遠賀川水系庄内川については、国が令和元年度から新たに創設した「浸水対策重点地域緊急事業」として採択されました。

- 筑後川水系山ノ井川 事業区間:L=6.0km
- 遠賀川水系庄内川 事業区間:L=3.0km



(山ノ井川の浸水状況)

(3)ダム事業の完成

福岡県では、平成30年3月に県内で2つのダム事業が完了しました。いずれのダムにおいても、現在は試験湛水を実施しており、ダムの安全性を確認しているところではありますが、先に記した、平成29年、30年の近年まれにみる大雨においても、この二つのダムの下流の地域において浸水被害を防止し、その効果を十分に発揮したことはダムの完成とともに、とても喜ばしいことでありました。

(ア)五ヶ山ダム(那珂川開発事業)

五ヶ山ダムは、二級河川那珂川の上流である那珂川市大字五ヶ山地先に建設された、総貯水容量4,020万m³の重力式コンクリートダムです。

五ヶ山ダム下流沿川では、平成11年、15年、21年をはじめ幾度となく洪水の被害を受けてきました。また、昭和53年、平成6年には長期の給水制限が行われるなど記録的な渇水の被害を受けてきた地域でもあります。

昭和63年に建設事業に着手し、平成28年1月には堤体コンクリート打設を完了し、28年10月より試験湛水を実施しています。

(イ)伊良原ダム(祓川開発事業)

伊良原ダムは、二級河川祓川の上流である京都郡みやこ町大字犀川地先に建設された総貯水容量2,870万m³の重力式コンクリートダムです。

祓川は、急流のため、これまでに昭和54年、55年、平成24年を始め幾度も河岸の決壊・氾濫など洪水を起こしてきました。

また、夏季においてはしばしば深刻な水不足に見舞われており、新たな水源の確保が強く望まれ土地でもありました。

平成2年に建設事業に着手し、平成29年5月には堤体コンクリート打設を完了し、29年10月より試験湛水を実施しています。





○九州地方治水大会の開催

さて、10月15日(火)に令和元年度九州地方治水大会を福岡市で開催いたします。この大会では、九州大学の塚原健一様に、事前防災の必要性と今後の対策について講演していただきます。



(太宰府天満宮)

また、令和元年度の開催地となります福岡県は、新元号「令和」のゆかりの地であります。「令和」の命名は今から1300年ほど前、ここ福岡県の太宰府の地で行われた「梅花の宴(ばいかのえん)」に由来します。

時に、^{しよしゆん れいげつ きうるわし}初春の令月、気淑く風和らぐ。

^{きようぜん こ ひら はいご かおり かお}梅は鏡前の粉に披き 蘭は珮後の香に薫る。

皆様におかれましては、この機会に「令和」のふるさと福岡県へお越しいただき、新しい時代の息吹を感じて頂ければと思います。

皆様のご参加を、心からお待ちしております。